

質問

作業療法士になるため、現在リハビリの学校に通っています。家族ががんの治療を受けていることもあり、緩和ケアに興味があります。緩和ケアにおける作業療法士の役割について聞かせてください。

緩和ケアにおける作業療法士の役割は



阪井 亜希子

県立中央病院医療技術局
リハビリテーション技術科
作業療法士

回答

作業療法士とは、「食事」「トイレ」「家事」などの日常生活で必要な動作や、地域活動への参加、就労する際に必要な能力を維持・改善するためのリハビリテーションを行う専門職です。体だけでなく心のリハビリも担当し、患者が「その人らしい」生活を送ることを目的に活動しています。

緩和ケアが必要な時期のリハビリの目的は、患者とその家族の希望や要望を把握した上で、身体的・精神的に負担の少ないADL(日常生活動作)の習得と、その時期にできる限り質の高い生活を実現することです。

この時期、患者は痛みや倦怠感などさまざまな身体的苦痛に加えて、不安や気分の落ち込みなどの精神的苦痛も抱えています。社会活動や日常生活

身体・精神両面で支える



「その人らしい」生活提案

このように、作業療法士の役割は大きく、身体面・精神面の両方で患者や家族を支える重要な仕事で、とてもやりがいがあります。



活の制限も増えるため、抑うつ症状が現れる場合も多いです。

家族も、患者ががんと告げられた時の衝撃は極めて大きいですが、家族は患者の良き理解者であり、かけがえのない存在です。そのため、家族も

がん何でもクイズ

乳がんの早期発見のための乳房のX線検査は何ですか。

- ①マンモグラフィ ②シンチグラフィ ③PET検査

行こうよ！がん検診

要になります。

私たちはこのことを念頭に、患者と関わる中で生活をする上で必要な体の動きに制限が生じる時期を推測しつつ、「どのように過ごしたいか」など患者や家族のニーズを把握します。

実際に、直接的な身体的苦痛へのアプローチとしてストレッチやマッサージ、ポジショニングなどを行います。症状が緩和してリラクセスでき、精神的な安らぎにつながることもあります。「トイレに行きたい」「歩きたい」などの要望に対して身体的な改善が見込めなくとも、補助具をはじめ生活環境の整備や適切な介護方法を家族に伝えることでニーズに添える可能性があります。